
給料泥棒

グーフィ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

給料泥棒

【Zコード】

N5133A

【作者名】

グーフィ

【あらすじ】

給料が・・・・・・・・・・・・

(前書き)

読んでもらいたいとおもっています。
よろしくお願いします。

「うむ、ある国の中核地。周りにあるもの、そびえるように建つ数々のビルや高級マンション。おしゃれな喫茶店、あふれる様に走っていく人ごみ、排気ガスをまき散らしながら走る大量の車。まあ、そんなもんかな。

僕は一ヶ月くらい前に、町はずれの田舎から、こうこう都市に出てきたのだ。

そこで、なんとか仕事に就いて、上司に怒られながら毎日毎日ペンを片手に書類を片付けるということをしてきた。

そして、今日はまちに待った給料日なのだ。

僕は人生で一番最初の給料をもらつて、早速いくら入っているか見てみた。

「えーーとお札が一枚、一枚、三枚、・・・・十枚・・・・まあこんなもんか。でもこれじゃあまともに生活できないよな・・・・・まつ、ないよりはマシか!」

僕は、給料を持って、僕のマンションに戻り始めた。人ごみのなかを歩き、バスに乗り、電車でもみくちゃにされ、ようやく我が家マンションに到着した。僕の部屋は狭くて、畳、六畳くらいしかない。そこには、折りたたみ式のベッドと小さなテレビ、台所に冷蔵庫がある。風呂はあるけど、トイレはマンションの住民と共同で使っている。

「ふー。やつと着いた。」

僕は、冷蔵庫からコンビニのお弁当を取り出した。それを電子レンジで温め食べ始めた。

「コンビニのお弁当はなんでこんなにお肉の厚さが薄いのかねー。そんな文句を言いながら、お弁当を食べ終わると、だんだんと眠くなってきた。

「風呂に入つてから寝よつかな。」

僕はお風呂に入り、体の汚れをおとして気持ちよくお風呂から出た。そして、水分を補給して、布団にもぐりこみ、深い眠りに落ちた。

ー次の日ー

今日は久しぶりの休みだ。給料で買い物にでも行こうかな。

僕は買出しに、近くのスーパー・マーケットに行つた。

そこで、にんじん、たまねぎ、きゅべつ、インスタントのご飯やラーメンなどを買い集めた。

両手いっぱいに荷物を抱え、僕は帰り始めた。

そして、我が家まであと少しあとというところで、一人の少年が、僕にぶつかった。そして、そのまま走り去つたのだ。

僕は嫌な予感がした。そこで財布があるかどうか調べた・・・・・予感的中。

やっぱり財布を盗まれたのだ。

僕は荷物を置いて、少年の後を追いかけた。少年との距離は、十メートルくらいか。これくらいなら追いつけるだろう。

あつという間に少年との間は縮まった。もう手を伸ばせば捕まえられるだろう。

そう思つたとき、少年は急カーブをして、僕は少年を捕まえ損なつた。

そして、少年はその先の倉庫に走つていった。そこは廃墟された倉庫らしい。

いたるところにガラスの破片が散乱していて、腐った木材が横向き積まれていた。他にはドラム缶がところ狭しと置かれている。

そして、そこに少年がいた。少年だけじゃない、少年よりも大きな男が数人でてきた。手には、バットやナイフを持っている。

そして、その少年達は、僕に襲いかかつて來た。

でも、僕には何の問題もなかつた。僕はこう見えても昔から喧嘩じやあ負けたことはなかつたのだ。

僕は攻撃をひらりひらりとかわし、その内三人に、パンチを打ち込

んだ。そして、その勢いで、財布を盗んだ少年から財布を取り戻した。

ここで一件落着かと思われた。でも、僕が倉庫から出たときには、何十人もの少年に囲まれていた。

僕は倉庫に戻つて、他の逃げ道を探した。・・・・・あつた、ここだ。

そこは、薄い壁になつていて、さび付いている。僕はそこを破り、脱出した。

少年達もむきになつて追いかけてくる。

そこで、僕はある事をした。僕は走りに走つて、少年達を疲れさせた。そして少年達が疲れて、ばらばらにした。その後一人一人を闇討ちしていくのだ。

こうして僕は一人残らず少年達をなぎ倒した。

「あーあ、疲れたなあ。・・・・・あつ、荷物を地面に置きっぱなしだつた。」

そして僕は急いで家に帰り始めた。

(後書き)

どうでしたか?
もしよかつたら感想を書いてもらひえれば
うれしいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5133a/>

給料泥棒

2010年10月16日06時29分発行